

令和7年度 第2回二宮町政策評価委員会 議事要旨

開催日時	令和7年11月4日（火） 午後1:30～2:30	
開催場所	二宮町役場2階 第1会議室	
出席者	委員	出席7名 大田 博樹 委員、帰山 訓 委員、荒木 雅幸 委員、 渋谷 佳代子 委員、井通 隆正 委員、上村 舞子 委員 川平 和代 委員 欠席0名
	町	企画政策担当参事、政策部長
	事務局	政策部企画政策課2名
傍聴者数	0名	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 二宮町行政評価の意見集約結果について (2) その他 4. 閉 会 	
配布資料	資 料1 行政評価施策評価シート（令和6年度実績）	

【議事要旨】

(1) 二宮町行政評価の意見集約結果について

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

施策1

総合計画：「公共施設の利便性、機能性を高めるまちづくり」

総合戦略：「公共施設のマネジメントと新たな魅力の創出」

- ◎ 本委員会による外部評価が行政の内部評価の「B：一定の成果があった」を覆す内容となっているが、外部評価の主な意見が少ないように思う。外部評価を「C：あまり成果がなかった」とした理由をもっと付記するべきではないか。
- 内部評価で「B：一定の成果があった」とされていたものを外部評価で「C：あまり成果がなかった」とするのであれば、東大果樹園跡地のことだけでなく他の理由も付すべきだと思う。
- ◎ 内部評価は、KPIの評価指標を基に行われており、ラディアンや図書館については触れているが、新庁舎整備については触れていない。委員会の評価として、東大果樹園跡地に関するKPIの達成状況がDであったため、そこに引っ張られてしまった印象はある。
- 東大果樹園跡地活用事業のKPIについては、新規団体数でなく利用団体数にすべきではないかという意見に対し、町は基準を変えずに今後も努力するとしていたことから、外部評価の理由としては妥当だと思う。
その他、延床面積に関するKPIに対して、前回、活発に意見が出ていたと記憶しているが、その点が書かれていないのではないか。
- 温水プールを廃止し、行政財産から普通財産となったため延床面積は減少したが、町の所有物に変わりないのご意見をいただきました。
- 普通財産となったことでKPIの延床面積から温水プールを除外しているが、もし、新たな方法で使い始めて行政財産に戻ってしまうことがあれば、それは削減とは言えないのではないかという意見だったと思う。
- 面積を減らすことで、町民サービスの低下に繋がることや、普通財産になっても維持管理費はかかるのではないか、といった意見も出ていた。
- ◎ 外部評価として、公共施設の総延床面積を減らすKPIは再考した方がよいことから、延床面積を減らすことが目的ではなく、公共サービスの充実に向けた取り組みを進めるべきだと付記してよいか。
- 前回の委員会でも話はあったが、普通財産であっても町の財産であることには変わりなく、延床面積が減ることにより経費がかからなくなるが、それに伴って町民の満足度が増えているのかは疑問である。

- ◎ 「重点的方針が、「公共施設の利便性、機能性を高めるまちづくり」とされているため、その目的に合ったまちづくりをしていく必要がある。」と意見を付記すること。

施策2

総合計画：「子どもの笑顔がかがやく、子育てと教育のまちづくり」

総合戦略：「特色ある教育活動の推進」

「妊娠から子育てまでの切れ目のない支援」

「仕事と子育ての両立支援」

- ◎ 今回、英語検定の受験状況が参考で示されたが、割合で見ると特に増加はしていないように思える。上昇傾向という言葉を使うことに問題はないか。
- 令和7年度の数值は途中経過であり、担当課としては前年度より増加すると考えているようです。
- ◎ こちらも、内部評価に比べ外部評価の主な意見が少ないように思う。
学校での ICT や小中一貫教育に関しても KPI として存在しているが、意見は特に付記しなくてよいか。
- 意見の中に、「待機児童数に関しては、概ね計画値を達成しているものの前向きな対応が必要である」とあるが、前向きな対応とは何かがわからない。
- 年度途中では、待機児童が発生しているタイミングがあるため、受け入れ体制をもう少し余裕を持ったものにしてほしいという内容だったと思う。
- 待機児童の受け入れ体制は、子育て世代の移住者が重視する点であり、子育てしやすい環境を作り出すには、受け入れ体制に余裕を持たせるべきというご意見をいただきました。
- 読んだ人にそれが伝わらなくては意味がないのではないか。
- ◎ 「前向きな対応」について、具体的な内容を追記すること。
- 施策2の重点的方針が「子どもの笑顔がかがやく、子育てと教育のまちづくり」となっているが、中学校の部活動が減少していることについて、町の前向きな対応が感じられない。学校の統合等が進んでいないことから、これまでどおり、こどもたちが部活動に参加できるようにしてほしい。
- ◎ 「今後、部活動のサポートなどといった、こども達を笑顔にするための施策を追加していく必要がある」と付記すること。
- こどもの減少に伴い団体スポーツが成り立たなくなってきており、部活動の地域移行も難しいという話の中で、二宮町では学区を超えて部活動に参加できる拠点校のシステムが導入されたが、部活動の開始時間や移動手段において、学校同士の対応などがうまく調整できていなかったように思う。
一部の地域のみ自転車移動が許可されているが、その他の地域で徒歩 40 分かかる生徒にとっては平日の部活動への参加は難しい状況である。
- 小中一貫教育について、小中学校にこどもが在学している方だけでなく、これか

ら入学することもがいる世帯や移住者などにとって、もっとわかりやすい形で情報発信できると町の魅力にもなるのではないか。

- ◎ 「小中一貫教育の認知度は上昇傾向にあるものの、住民にわかりやすい説明が必要」と付記すること。

施策3

総合計画：「気候変動対策による持続可能なまちづくり」

総合戦略：「豊かな環境の保全と気候変動対策の充実」

- 外部評価の2点目にある「道路維持等に関するKPIの設定が必要」という点について、自治会を通じて地区要望を出しているが、町からの回答はネガティブな内容が多い印象がある。そのような中でKPIとして取り上げてもらうのは難しいかと思うが、地区要望がどれだけ挙げられているかも考慮して、改めて見直してもらいたい。
- ◎ 「KPI」という言葉を使わず、「道路維持等に関して積極的に取り組んでほしい」と修正する。
- 地球温暖化・気候変動の認知度の実績が高いように思えるが、どういった方法で計測しているのか。
- 毎年、町民1,000人に対するアンケートから把握しています。
- 二宮町地球温暖化対策実行計画に掲載されている一つ一つの取り組みについて、雨水タンクの設置やLED照明器具の買い換えの補助金などのように、具体化していくためのKPIがあればよいと思う。
- ◎ 「二宮町が策定している地球温暖化対策実行計画の進捗度について、KPIとして測定する必要がある」といった意見を付記するか。
- どのような項目とするかは、改めて考えていただく必要はあるが、せっかく立派な計画があるので、進捗度として測定できるようにしてもらいたい。
- ◎ 温暖化対策の取り組みの進捗状況を測る具体的なKPIの設定については、今後の検討事項として、外部評価の意見として付記することとする。

施策4

総合計画：「誰もが自分らしく安全・安心に暮らせるまちづくり」

総合戦略：「地域で支えあう体制の構築」

- ◎ 内部評価に対して外部評価で評価を下げているが、その根拠となる意見が「目標値の設定は現実に合わせた数値に見直すべき」のみであることから、もう少し説得力のある文章にする必要があると思う。
認知症サポーター養成講座受講者数に関するKPIは達成状況がDであったが、それに対する意見はあるか。

- KPIのうち、達成状況がDという結果だったものについては、相当の努力をもって改善する必要があることから、それを意識してもらうという意味で外部評価を下げることはよいと思う。ただ、外部評価の意見の中で、その言及がないので外部評価をCとした理由を追加すべき。
- 認知症サポーター養成講座の受講者数は、年度ごとの集計ではなく、年度間の積み上げにした方がよいという外部評価の意見に対して、受講者の裾野を広げていく考えのもと、計画値をそのままにしているという回答があったため、外部評価の意見として触れていなかったと思う。
また、地域活動へ参加している人の割合について、前回の委員会で、そもそも目標値が低いという議論があったが、意見として書かれていない。そういった点も考慮して、外部評価の意見は資料のように一文でまとめるのではなく、一つ一つの指標に対してきちんと記すようにしてもらいたい。
- ◎ 「地域活動において様々な課題」としている内容をどのようにするか。
- アンケート結果を実績としている地域活動に参加している人の割合は、自治会の所属に関係なく何らかの活動をしている人とのことだが、その割に目標値が低いため、目標値を上げていかないと地域力を上げることには繋がらないと思う。
- ◎ 地域活動とは具体的に何を指しているのか。
- ボランティアや自治会、消防団など地域に係る団体、サークル又は個人の活動を指します。
- ◎ その条件にしては、4人に1人が参加しているという実績は少ない印象を受ける。
- 施策4の重点的方針を「安全・安心に暮らせるまちづくり」としているのもっと一人一人が地域と繋がっていけるような取り組みがあるとよい。
外部評価の意見として、「人権講演会への職員出席数」や「相談の受付状況」等とは別に記してもらいたい。
- ◎ 「地域力を向上させるため、KPIの目標値を見直すとともに、実際に地域活動に参加できる仕組みづくりに積極的に取り組む必要がある。」と付記すること。
- 人権講演会への出席数に関するKPIについて、住民ではなく職員の出席数を指標としていることに違和感がある。職員の1割程度しか受けていないのにAという評価になるのか。住民の人権意識の高まりを指標とする方が、KPIとしてふさわしいのではないか。
- ◎ 実際、地域の方が参加する人権講演会等はあるのか。
- 担当課で企画し、町主催で一般向けに開催している人権講演会があります。
- ◎ 今、記載されている外部評価の意見を「人権講演会への町職員出席数や相談の受付状況等は、概ね目標値は達成しているが、町職員の出席数のKPIでなく、町主催の講演会による普及啓発をさらに推進するとともに、KPIの見直しをすること。」と「自治会や自主防災などの地域活動については、地域力を向上させるために、KPIの目標値を見直すとともに、実際に地域活動に参加できるような仕組みづくりに積極的に取り組む必要がある。」の2つの文章に分けて記載することとする。

- ◎ 認知症サポーターについては、特に意見は付すことはしなくてよいか。
- 土日開催等を検討しない限り、達成は無理だと思う。
- ◎ 最終的に認知症サポーターの人数を増やすことが目的であれば、KPIの受講者数は新規でなくてもよいと思う。
- 認知症サポーター養成講座について、2回目の受講も可能で、受講者数としてカウントされています。
- ◎ 2回目の受講もカウントされているとなると、指標の数字が意味を持たないのではないか。重複している人数を別途示さなければ、実際に認知症サポーターの知識を持った人が増えているか測定ができなくなる。
測定方法について、実態が把握できなくなってしまうため、2回目以降の受講者数は別途表記すべきと付記してもよいのではないか。
- 今の方法では、認知症サポーターの実人数がわからないことになる。例えば、経験に応じてコースが分かれているのであれば、それぞれの人数を示すことはできると思う。
- ◎ 「認知症サポーター養成講座の受講者数については、新規受講者数のみにするなど、サポーターの人数がわかるものとなるよう、人数の測定方法を再検討するべき。」と付記することとする。
- 講座の実施方法等の詳細については、事務局で把握していないため、担当課に確認のうえ対応させていただきます。

施策5

総合計画：「活力があふれる、選ばれるまちづくり」

総合戦略：「二宮らしい魅力の創出と発信」

「地域商工業の活性化」

「地域農林業の活性化」

- 外部評価の意見が、ひとつにまとめられているが、事業継承と遊休荒廃農地は内容が違うため、分けて記した方がよいと思う。
- ◎ 事業継承と遊休荒廃農地に関しては、それぞれを分割して評価状況を記載すること。
- 町で開催している文化祭や二宮ブランド、観光に関する事業等、こどもを含めた住民と一緒に取り組んでいることに対して、町民として評価できると思うが、これをどのように加えたらよいか。
- ◎ 関連する主な予算等事業の「文化振興事業」について、KPIの項目としては反映されていないが、二宮ブランドの認知度や、こどもを中心とした文化振興事業等、前向きな取り組みが評価できると付記することはできると思う。
- 住民と一体となった姿勢を表現するという点では非常によいと思う。
- ◎ 「二宮ブランドや、こどもたちを中心とした文化振興事業など、住民と一体となっ

た取り組みが評価できる。」と付記すること。

- 良い点として、町のホームページの「にのみやLife」の閲覧数が増えており、これは見てもらえるように努力をしている結果だと思えるので評価したい。
- ◎ 「町のホームページの「にのみやLife」の閲覧数の増加など、町の振興事業への前向きな取り組みを評価することができる。」と付記すること。

施策6

総合計画：「新しい時代に向けて、しなやかに対応するまちづくり」

総合戦略：「デジタル技術による行政サービスの向上」

- ◎ オンライン化に関する実績は非常に良好であるが、外部評価として意見に記載している「その他の実績についても良好であり」について内容が見えない。
外部評価を「A：十分な成果があった」としている中で、連携事業数や地域活動に参加している人数は多くはないようだが、評価はこのままにしてよいか。
- 地域活動に参加している人の割合に関しては、前回の委員会において「施策6で議論する必要はない」と、したと思う。
- 「施策4で協議しているので、施策6で評価する必要はない」、「施策6の目的にふさわしくない」という意見をいただきました。そのため、「施策4にて評価」とするか、完全に削除してもよいかもかもしれません。
- 町民の利便性の向上という点で、実際、生活していて感じるのは、オンライン化により広報が見やすくなったことくらいである。
- 地域で開催しているスマホ教室がとても好評で、使い方だけでなくリスクについても共有されていると聞いている。町の活動がどれほど影響したかは分からないが、お年寄りが様々な場面でスマホを使用できるようになったことは時代の変化を感じる。
- ◎ 評価の中には記載がないが、オンライン化の普及により、住民のオンラインへの対応力の向上に繋がっているとは言えると思う。
- 連携事業数の実績である2件は具体的にどういったものか。
- ひとつは包括連携協定を締結している神奈川大学に職員を派遣し、公務員を希望している学生などに対し、公務員の仕事についての講義や、自治体の課題を共有することで、学生同士が議論しアイデアを出し合うといった授業を実施しています。
- このKPIの実績については、二宮町行政改革推進計画の進捗状況をもとに2件としていますが、性質上、自治体の広域連携事業も含まれることから、実際にはもっと存在すると考えています。そのため、現在、各課に照会を行い連携事業について再度精査をしています。今年度の行政改革の見直しに伴い、こちらのKPIについても見直しをさせていただきたいと思っていますので、次回、連携の一覧表などもお示しして情報共有いたします。
- 観光連携や3市3町の広域事業など、実際にはKPIの数値を超えていると思う。

包括連携協定は分かりやすいが、事業で連携しているものについてはもっとあるように思うので、連携事業数を実際の数値に見直すことにより「A：十分な成果があった」という評価に繋がられるのではないかと。

- ◎ 現在のところは、外部評価の理由としてオンライン化に関する意見だけだが、連携事業数については、今後修正があれば付記することとする。

(2) その他

- 次回会議は12月を予定しています。近日中に改めて日程調整をさせていただきます。
- 第3回は、意見書の取りまとめとなります。本日の議題を補足修正させていただきながら意見書の取りまとめさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【以上】